

羽田空港における取組状況

2026年8月3日

日本空港ビルディング株式会社



- 第1ターミナル北サテライト概要のご紹介
- 顔認証による搭乗手続き（Face Express）利用促進に向けた取組
- ランプバス自動運転実証の取組

第1ターミナル 北サテライト

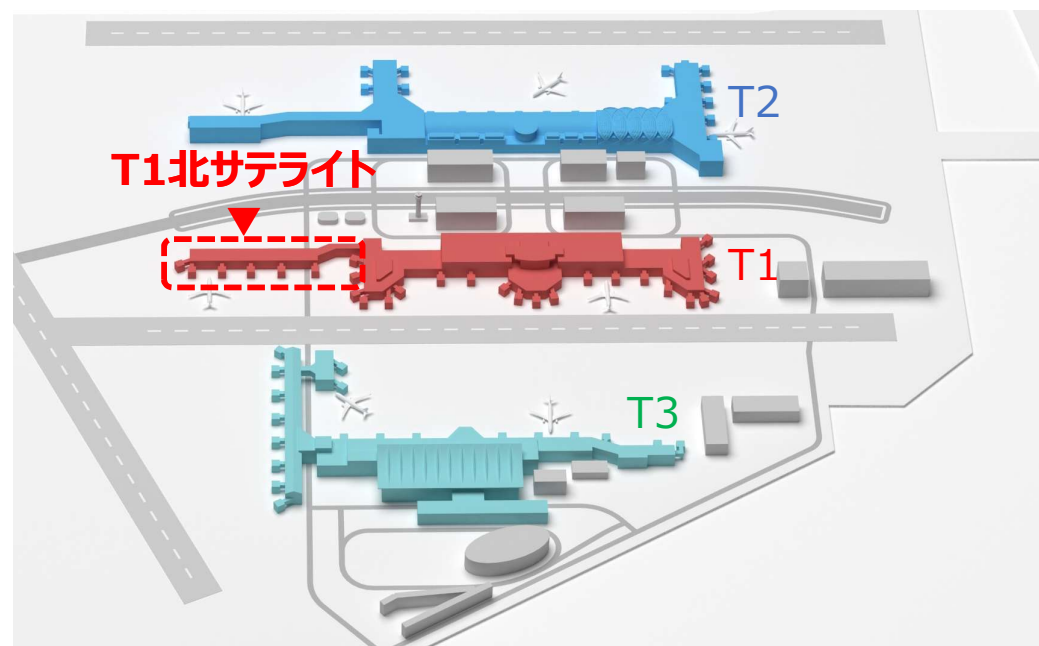
概要

建築面積 : 約11,000m²
延床面積 : 約21,000m²
構造 : 木造・鉄骨ハイブリッド
工期 : 2024年5月～2026年5月
設計監理 : (株)梓設計
施工 : 大成建設(株)

特徴

Point.1 木造・木質化

Point.2 エネルギー消費の低減 (ZEB Oriented)

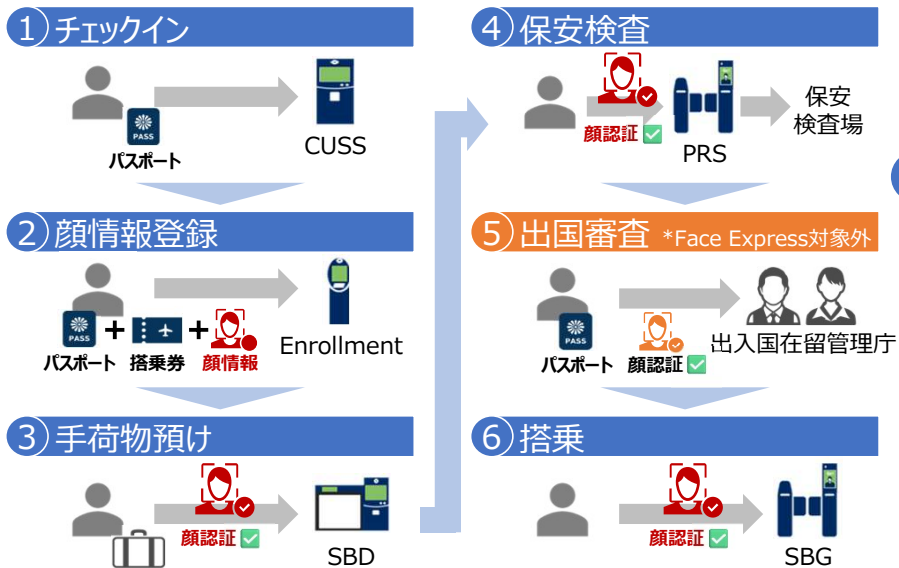


Face Express利用促進に向けた取組

出発時の各種手続きにおける顔認証利用(Face Express)を推進中。現在、航空会社4社にて導入済、更なる拡大に取り組む。省人化、待ち時間短縮による混雑緩和を通じ、顧客体験の向上を図る。

Face Expressの概要

- 顔認証を用いて、出発時の各種手続きを顔パスで利用
- 現在は、4社の航空会社*が利用
*日本航空、全日本空輸、デルタ航空、大韓航空



取り組み状況サマリ

- Face Expressへの参画航空会社数の拡大と利用率の向上に取り組む
- 待ち時間削減→空港混雑緩和→顧客体験向上といった好循環の創出を目指す

目的	主な取り組み	今後の検討課題
待ち時間短縮	- 搭乗手続き時における混雑解消 ✓ CUSSへの顔情報登録機能実装 ✓ CUSS・Enrollment KIOSKのレイアウト変更 ✓ 保安検査場前の混雑解消	- チェックイン～搭乗までの更なる一気通貫化 - モバイルでの顔情報登録アプリの導入に向けた課題整理
利用率向上	- Face Expressの認知度向上 ✓ 空港内掲示物の刷新 ✓ SNS発信等のプロモーション強化 - 利用航空会社の拡大 ✓ AOCとのワーキングを通じた働きかけの強化	TSAとの調整を通じた米国就航路線での導入

Face Express利用促進に向けた取組 ～空港内における認知度向上～

新コピービジュアル掲載



新コピー
ビジュアル

掲載の様子



CUSS画面変更

Face Express対応CUSSトップ画面 Face Express非対応CUSSトップ画面



CUSSチェックイン終了画面



Face Express利用促進に向けた取組 ～SNS発信・羽田空港HP掲載～

インフルエンサーSNS発信



羽田公式SNS発信



羽田空港HP掲載



空港ターミナル間バス（制限区域内）での自動運転実証の取組

東京都の東京ベイeSG プロジェクト「Tokyo Bay Innovation Field（旧先行プロジェクト）」において、次世代モビリティ（自動運転）分野の提案の採択を受け、2028年度以降に、羽田空港の制限区域内におけるバス車両での自動運転レベル4による定常走行の実現を目指す。

項目	内容
事業概要	「自己位置推定技術の複合化」及び「路側反射体の開発」を行い中央防波堤エリアを技術実証の場として走行実証を実施。開発された技術で羽田空港制限区域内での走行実証を行い有効性を確認するとともに、自動運転レベル4を実現予定。
場所	中央防波堤エリア、東京国際クルーズターミナル、羽田空港/制限区域内
実施体制	日本空港ビルデング(代表)、ティアフォー、大成建設、アサイ、東京空港交通、ニッコー観光バス、両備ホールディングス
スケジュール目標	2025年度 中央防波堤エリア等における技術開発・検証 2026年度 羽田空港制限区域内でのレベル2 走行検証 2027年度 羽田空港制限区域内でのレベル4 走行検証
実証内容	自己位置推定の複合化技術の開発・走行検証 路側反射体の開発・技術検証

